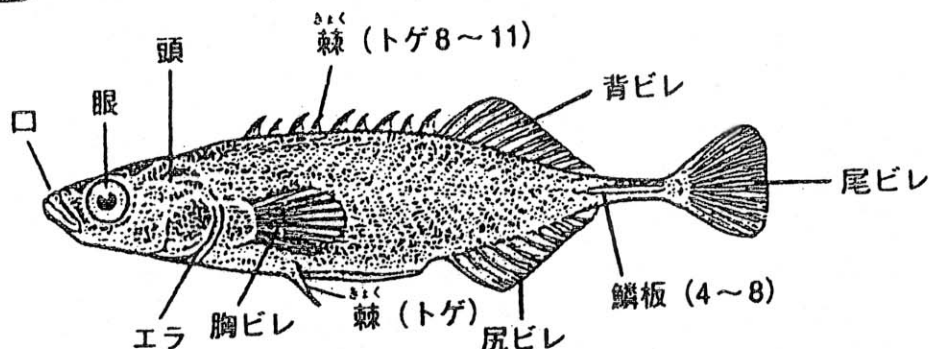


イバラトミヨはこんな魚です

体の特徴



イバラトミヨは3 cm～5 cm位の小さな魚です。水がきれいで、水草が茂った小川や湧水のあるところに1年中すみます。流れの緩やかな水草の間にひそみ、水生昆虫やヨコエビなどを食べます。

4月下旬から6月中旬にかけて、雄は巣を作り、その中に産みつけられた卵や稚魚を守るために、巣に近づく他の魚を追いはらいます。水底に生える水草などの茎の底から少しはなれた所に、植物破片を使って両端あるいは一端に入り口のある小さな丸い巣を作ります。

雌はこの巣の中で1回に30～40粒の卵を産みます。また、雌は産卵期間中に数回産卵します。

この地では、イバラトミヨは、昔、トゲソとかトゲシなどと呼ばれてきました。

河川改修などによって水路化され、水草類の少なくなった河川では流れも速く、産卵に適した場所は少なくなってきています。また、この魚は冷たくてきれいな水を好むため生息箇所も限られ、生息数も減少傾向にあります。

県内でもイバラトミヨの生息が減少している中、近年の調査で五泉市でも生息が再確認できました。

それは、イバラトミヨが好む冷たくてきれいな小川がまだ残っているからです。水源は水温12℃～15℃の湧水です。

このすばらしい自然がいつまでもつづくように、大切にしていきたいものです。

トゲウオ科の仲間

